

# 学び合う主体的な学習集団を目指す実践～中学3年国語科～

## 1 はじめに

自分の考えを、「なぜそう思ったのか」と根拠を示しながら話し合い活動をする生徒がいる教室を想像してみてください。互いに考えを述べながら、自分たちの考えの共通点、相違点を知ることによって話し合い活動が活発になったり、考えが深まったりと、一人一人が輝いた目で学習に取り組んでいる授業ができれば、と感じたことはありませんか。

そんな学級、学びの集団を目指し試行錯誤で実践してみました。

## 2 「共感的人間関係を育む教育活動」

### (1) 相互交流に参加するために、自分の考えを確認する場の設定

#### ① 俳句の可能性

～鑑賞の基本を学ぶために～

「どの子にも涼しく風の吹く日かな」の俳句を全員で鑑賞する。分かっていること、考えられること、感じたことを一人一人が自由に書く。その際に「鑑賞のポイント」を提示することで個々に学習が成立し、読み取りが可能になる。

#### 〈鑑賞のポイント〉

- ・季節は？ ・天候は？ ・時刻は？ ・場所は？
- ・作者はどこにいるのか
- ・作者はどんな人か？ ・その他に人物はいるのか？
- ・何をしているのか？ ・どんな風景か？ ・五感のどこを使っているか？
- ・句切れは？ ・どんなことを感じているのか？
- ・使われている表現技法は？ ・その他

・風が吹いて気持ちがいい季節は？→ 春→ 本当に？ →春より気持ちいい時はない？ →夏！ →どっちがいいかな？ →「涼しい風」が気持ちいいのは夏しかないよね。

・子どもたちはどこにいるのかな？→ 公園→ 木の下 →教室、扇風機が回っている。

- 全体の場の交流だったが、一人一人自分の考えを発表することができた。異なる考えの時は、「なんで？」と互いに聞き合う姿が見られた。

→ 鑑賞のポイントを示したことで、抵抗を示すこともなく俳句の読み取り、情景を想像しようという意欲が喚起された。

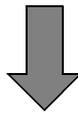
## ② 君待つと

～根拠をもとに解釈する方法を学ぶために～

古典の学習に対して「難しい」という苦手意識をもっている生徒が多いことが事前の調査で分かった。書くことに対しても苦手意識をもっている傾向があるので、スムーズに学習に取り組ませるために意見交流の場を設定した。

学習の流れ

- ①教科書で和歌の口語訳を学習する。
- ②好きな和歌を一首選び、その背景にある物語を考える（場面設定）。
- ③同じ和歌を選んだ生徒同士で意見交流を行う。
- ④交流後、自分の歌物語を創作する。



〈場面設定〉

・場所 ・登場人物 ・季節 ・時間帯 ・心情 ・場面 ・その他

同じ和歌を選んだ生徒同士で小集団学習を行ったことで、自分の解釈に同意を貰うことで自信につながったり、修正を加えたりして深まりをもたせることができた。意見交流の場の設定の重要性を実感した。「かくされた物語は、どんな物語だったのだろう」と投げかけたことで学習意欲が高まった。個々の勝手な想像による解釈は見られなかった。



〈同じ和歌を選んだ生徒同士の情報交換をしています。どうして違うのか、それぞれ考えながら意見交流を行っています。友達の見解は青ペンでメモを取りながら聞いています。〉

場面設定のメモ欄に友達の見解を青ペンで記入。メモが書けなかった生徒にとっては、大事な情報。

◎場面設定

物語のテーマ	夢と現実	志と理想の対立
どこで・場所	作者の家	家
いつ・季節・時間	冬の始め、深夜	冬
どんな気候	雪が降っている	雪
どんな人物・性別	作者も下宿する女性(性癖)	作者
何をしている	寝ては起して(女性)汗が流	夢と現実の対立
どんな気持ち	切ない苦しい(女性)	切ない
その他	涙を流す。	涙

◎選んだ和歌

あつたつ寝しを夢に見よとぞ言ひては思ふこと  
 心と見ゆ寝しを夢に見よとぞ言ひては思ふこと  
 (昔夢のあつたつ寝しを夢に見よとぞ言ひては思ふこと)

あつたつ寝しを夢に見よとぞ言ひては思ふこと  
 心と見ゆ寝しを夢に見よとぞ言ひては思ふこと  
 (昔夢のあつたつ寝しを夢に見よとぞ言ひては思ふこと)

◎場面設定

物語のテーマ	秋の始まり	直秋
どこで・場所	家	家
いつ・季節・時間	秋の始まり	秋
どんな気候	晴	晴
どんな人物・性別	男性	男性
何をしている	風を感じている(直秋)	風
どんな気持ち	静かな	静かな
その他	少しづつ秋らしさを感じている	秋

◎選んだ和歌

秋の初日とては思ふこと  
 秋の初日とては思ふこと  
 (秋の初日とては思ふこと)

同じ和歌なのに「どうして違うんだろう」と話合うことで、深まりが見られた。友達の見解も参考にしながら歌物語を創作した。

二組の番氏名

秋の初日とては思ふこと  
 秋の初日とては思ふこと  
 (秋の初日とては思ふこと)

〈ワークシートに自分の考えを書いてから、交流を行いメモを作成。その後、歌物語を考えます。〉

(2) ペア学習に自分の考えを伝え合い、理解し合う場の設定

～スキルアップを目ざして～

教科書に大意が書いてある俳句で鑑賞の練習をさせた。俳句を黒板に提示し、教科書を閉じた状態で考えさせた。鑑賞のポイントに沿って、考えたことをメモ書き(単語だけでも可)させていった。

そのメモをもとに、ペア学習を行い自分の考えを伝え合い、共通していることはどんなことで、違っているのはどんなことなのかを話し合い、俳句の内容に最適な鑑賞を考えさせた。

- ノートのメモ書きをもとに自由に話し合いを行った。同じ解釈で納得したり、異なる解釈でそれぞれの考えの根拠を述べ合ったりすることで、自信や考えの広がりが見られた。

既習事項を生かし練習した内容だったので、個人のスキルアップにつながったと思われる。同じパターンとして学習し、手法を身に付けさせることが大切である。

### 3 「知識・技能を活用しながら、比較・検討、考える学習活動」

#### (1) 既習事項を生かして考えを深める場の設定 ～スキルアップを旨として～

前時までの学習内容を活用して、俳句の鑑賞を行った。教科書に載っている9首の俳句の中から一首選ばせて、鑑賞のポイントに沿って、考えたことをメモ書きさせ、それを文章化する流れで学習活動を展開した。同じ俳句を選んだ者同士で小集団学習を行い、考えを深めさせた。



〈小集団でメモを交流し合う〉

- 個人→ 小集団→ 個人→ 全体の流れで学習活動を行う。深まりを実感させるためにメモ書きは消さない。加筆、修正がわかるようにさせた。話し合い終了後、それぞれが鑑賞文を書き、再度交流させた。

**比較・検討し共通点、相違点を話し合わせたことで考えに広がりが見られた。最適な鑑賞文を書くためには、時間の確保と観点を示すことが大切になる。**

### 4 おわりに

学習の方法，ポイントを提示することで，生徒一人一人が自ら学ぶことができた。全員が鑑賞のポイントに沿ってメモを作り，それをもとに自分の考えを伝えることができた点では良かった。交流活動で自分の考えを発表することにより，学びに対する自信も見られた。

話し合うことで考えに広がりは見られたが，深まりは不十分だった。グループ活動での教師の支援が課題として残った。鑑賞文を読むと大意は把握できているが，言葉にこだわりながらの解釈をしている生徒は少なかった。その原因として，話し合い活動の焦点化が図れなかったことや，メモから文章にすることに抵抗を示す生徒がいたことが挙げられる。授業での経験不足も要因の一つとして考えられるので，日々の授業で比較・検討しながら交流する場面を意図的に設定していきたい。